

ある。途中雲助に脅迫される懼れもなければ、大井川に川止の厄を見る懸念も要らない。寝て居る裡に逃げて行くのである。僅か二百里内外の行程に尚且つ小半年といふ長い月日を費したといふ斯うした古人の歌を讀む毎に、私達は一睡の間に二百里の道を行く事の出来る文明開化の世に生れ合した身の幸福を思はずには居られないこれは果して何物の賜物であらう。言ふまでもない。ゼームス、ワットの蒸氣機関發明の賜物である。然うだ機械の發明は什麼にか人類の幸福を増進した事だらう。若し之れなかりせば私達は今も尚二百里の道を行くに半年といふ莫迦々しい長日月を費してゐるに違ひない。

實だに交通機關のみではない。ありとあらゆる工藝技術、一としで此の機械發明の餘澤を蒙らざるものはない。世界は之が爲めに俄然として面目を一新した。世に之れほどの革命が又さあるだらうかクロンエルと言ふ勿れ、ロベールと言ふ勿れ、ケレンスキイ、レーニンと言ふ勿れ。ワットに越した世界的大革命家は無いのである。

▲工場の悲劇

併し此處に注意を要する事は、私達がワットの蒸氣機關の發明にその端を發した所謂產業革命(後に説明する)を恰も口の出の如くに歓び迎へた所以の形邊に存するやと言ふ事である。